

■■■ 2010年度総会報告 ■■■

KFCの全体学習会と2010年総会を6月19日(土)に開催しました。夕方5時半からはじめた全体学習会には、KFC理事であり甲南女子大学多文化コミュニケーション学科准教授の野崎志帆さんから1年間のイギリス研究留学体験をもとに「イギリスの市民性教育の現場を訪ねて」というタイトルで話をしてもらいました。

前半、イギリス市民を育てる教育理念の変遷や対立点についてわかりやすい説明があった後、従前のマイノリティ教育で課題の中心であった「人種」よりもアメリカ同時多発テロ、ロンドン地下鉄爆破テロ以降は、イスラム教を焦点とする「宗教」が大きな課題として表出していることでイギリス型多文化主義の修正が模索されていること等が話されました。

後半は、学校現場訪問の様子を交えながらエスニックマイノリティの子どもの抱える課題とEAL (English Addition Language) をはじめとする支援内容についての説明がありました。

野崎さんの話で印象に残っているのは、イギリスの教育現場で働く先生の言葉として、「本を用いて学ぶ限り、それが何語であろうと気にしません。それは読み書き能力を保つことであり、興味を保つこと」という紹介でした。

KFCとして図書館とのコラボレーション事業を始めていますが、「本を用いて学ぶことに興味を持つ」ことの大切さを伝えられればと思いを強くした次第です。

学習会の後で、2010年度の総会を開催しました。KFCとして原点にたちかえり市民運動、市民組織として会員による事業の活性化、共生の原点としてあるべき人権への取り組みを活動の柱として再認識することを確認しました。

課題は山積みですが、KFCという場が皆でよく学び、よく生きる場となれるよう会員の一人として関わっていきたいと思っています。

<追記>

前号のニュースで書きました社会福祉協議会の生活福祉資金貸付制度における在留資格制限のことですが、電話対応した担当者の上司と話し合いをもったところ、生活福祉資金貸付の在留資格は実態として「永住者」に限定されておらず担当者の認識不足で間違った対応をしたという返答がありました。

詳細な実態の調査報告と担当者との面談設定を約束し話し合いを継続することになっています。

(金 宣 吉)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語教室保育

日本語教室は昨年11月頃から子どもを連れてこなくてはならない学習者のために保育を考えました。毎週、火曜日の午前中にフォンさんが担当されています。

フォンさんはベトナムから来られ、日本に10年ほど住んでいます。小学生と保育所へ行っている2児の母親です。フォンさんは10時には教室へ来られ、子どもたちが靴を脱いで自由に遊べるようにシートを敷いて、KFCの玩具、積木、ボール、カードなど準備しています。

現在、お世話になっているのは生まれがドイツの2歳児、ポーランド生まれの1歳に満たない2歳児いずれも女の子です。当初は、お母さんの学習が終わる迄、すごいバイタリティで泣きわめき、事務所の人もあやすのに協力したほどです。フォンさんは扱い方を色々考えて悩まれたそうです。でもやがて2児の間に、仲間意識のようなものが生まれ、少しの時間なら2人で楽しむ?こ

とも始めました。又、意思表示ができるようになると外へ行くことを望み、要求？するのでたまたま一人しか来ていない時はフォンさんは商店街の方まで、散歩させることもして子どもはご機嫌になります。そんな時フォンさんは自身のお子さんの小さい頃を思い出し、郷愁にも似た過去へのなつかしさを感じるそうです。これがこの仕事の楽しさと言われました。まだフォンさんは日本語は十分ではないといわれていますが、保育士のような気負いもなく、子どもたちに対しても余り手を出さずに淡々と見守っている人となり、この仕事を成功させているように思います。（ニュース係 気賀 倭文子）

◆お弁当ミーティング

6月23日のお弁当ミーティングでは上級の学習者を支援している問題点をとり上げていました。出席者はスタッフの奥さんの他に7人（その中で男性は1人）。初めてのメンバーもおられたので自己紹介が行われました。

まず、検定試験を受けたいという学生を受け持っている支援者数人がその悩みを話しました。試験は1級から4級迄の段階があった従来からN1～N5迄の分け方になりましたので、その内容がはっきりと分からないという不安。又、学習者に問題に対処するスキルを教えなくてはならないのか、支援者に頼りすぎている学生に責任を感じるプレッシャー。予想問題をするのにかなり時間をとる無味乾燥な勉強は双方にとってもつまらない、日常生活の日本語を充実させる指導に重点をおきたいという気持ちのゆれも聞かれました。でも“級”をもっていることがよい仕事につく切札になっているのが現状ですので、少し学習が進むと検定試験を望む学生がいるのです。そして合格すると次の級をと言い出すのだそうです。

次にボランティアとしての意識や態度を常に見直すべきとの声が出て、出席者はそれぞれ反省したと思います。あとは雑談がしばらく続き、お弁当ミーティングは終わりました。（ニュース係 気賀 倭文子）

◆アドバイザー派遣事業 「中上級者の支援について」

HIAのアドバイザー派遣で「中上級者の支援について」というテーマで講師を派遣していただくことになりました。

2回（内容同じ）開催いたしますので、是非ご参加ください。（事前申し込み不要・当日時間までにお集まりください。）

9月5日（日）13:00～15:00

於：シューズプラザ4階会議室

9月8日（水）13:30～15:30

於：KFC事務所

（アスタクエスタ北棟501）

◆ビール工場へ行ったよ！

5月31日（日）【快晴】12時に新長田駅に集合して西宮のアサヒビール工場へ見学へ行きました。

学習者の方の参加が当日にキャンセルとなり、支援者と理事長家族の合計7人の一行でしたが、時間通り工場へ到着。

日曜日なので生産ラインは動いていませんが、ビデオと係員の説明で麦やホップの品質管理、発酵の過程などビール大量生産一直線の工場内見学、最後にできたてビールの試飲を堪能して、

まあいい気分で見学ツアーを終えました。学習者との交流を兼ねた遠足にはなりませんでしたが、参加者同士の飲み絆を強くした日になりました。（参加者談より）（奥 優伽子）

◆内モンゴルを御存じですか

7月のKFC研修会では、4月からKFCで働いている呼和徳力根より出身地の紹介をしました。以下はその報告です。

皆さん、中国・内モンゴルをご存じですか。そこは日本の方々がなかなか分かりにくい場所でもあるように私は感じております。私が「内モンゴルから来ました」と自己紹介をするたびに、いつも「あ～モンゴル、朝青龍と一緒にですか？」と言われます。

モンゴル民族はかつて世界最大に帝国を作った歴史がある故、今でも彼らの後裔は広い範囲で分散して暮らしています。その主な居住地域はロシア・ブリヤード共和国、モンゴル国、中国・内モンゴル自治区です。

内モンゴル自治区は1947年（中国が1949年に設立する2年も前）に設立された中国の一自治区であります。かつてはほとんどの住民はモンゴル人でした。しかし現在は8割を漢民族が占めています。また内モンゴルは近年高い経済成長を誇っていますが、民族言語、文化、教育、さらに都市部と牧畜部の経済格差など様々の分野で矛盾が溢れている地域でもあります。

（参考文献：『変容するモンゴル世界 国境にまたがる民』和光大学モンゴル学術調査団著/1999/新幹社 『ノモンハン戦争 モンゴルと満洲国』田中克彦/2009/岩波新書）

草原の思い出

わたしは小学2年生の夏、とてもとて長い「夏休み」をもらいました。

当時、土で作られていた校舎は、棒で支えていたり、老朽化して、今にも倒れそうな状態でした。雨が降るだけでも、危険な状態で学校は休みになります。そして、日本の学校のように4階建ての校舎に建て替えることになったのです。

ある日、先生が「今年の夏休みはいつもより一ヶ月も長いよ！！」と言いました。するとみんなは、

「僕はお婆さん家に行って従兄弟と遊ぼ～」 「あたしは北京の親戚の家♪♪」

など、それぞれの夏休みの計画を立てることに盛り上がり、私も「おばあちゃんの家で夏休みを過ごそう！」と考えました。

いよいよ夏休みに入り、私は、100キロぐらい離れたおばあちゃんの家で一人でお出かけしました。バスで1時間「幸福道村」まで行き、そこからは従兄弟と一緒に馬車を1時間走らせてようやく到着です。

おばあちゃんの家では、羊の放牧、山の上でのトランプ、川での水泳、モンゴル相撲、砂遊び、農業の手伝いなど毎日従兄弟や、草原の友達たちと遊びました。（宿題や勉強もちゃんとしましたけど）

いつもは、8月末で終わってしまう夏休みですが、今年は、まだ一ヶ月もあります♪

モンゴルの秋は、越冬の準備をします。家畜の餌を準備するために「立ち入り禁止令」が出されている草刈地があります。そこは、草刈期以外、一年中「人」も「家畜」も立ち入ることはできません。そのためその地帯は、背丈の高い草に覆われていて野生動物が多く暮らしています。

今年は、長い夏休みのおかげで私が居る間に年に一度の「草刈」が始まりました。そして、いつもは入れない草刈地に初めて入ることができました。そこには、野鳥の巣、巣立ったばかりの

雛、キツネ、ハリネズミ、ヘビ、、、野生の動物が沢山居ました。羊、馬以外の動物を見ることはとても新鮮で毎日が冒険のようでした。

また、背丈の高い草の中で鬼ごっこ、草刈して出来た「草の山」の上で寝転んだり、昼寝、相撲をすることも出来ました。大自然の「トランポリン」で精一杯遊ぶ毎日でした。

楽しい体験が多く出来た長い夏休みが終わり、家に帰って、学校に行ってみると、4階建ての校舎が建設されていて私の教室はその中にありました。当時、地元では大きな建物と言えば政府機関関係の数棟しかなかったので、同級生たちと喜び勇んで強大な校舎の中を駆け回ったことを覚えています。

そして、この校舎は、僕たちにとって特別な意味がありました。それは、以前の古い土壁の教室には暖房もなかったからです。内モンゴルの冬はマイナス15～30度まで寒くなる時があるので、冬は教室の火起こしの当番を皆で決め、交代でその作業をしていました。この新しい校舎の中には温水式暖房が整備されているので、火起こし当番がいらなくなりました。ですから、この新しい校舎は凄く新鮮でありがたいものでした。いいことばかりの素敵な年でした。

2010年の4月に久しぶりの故郷に帰ったら母校がモンゴルの伝統的なデザインをした新しい校舎に変わっていました。小学校1年の時の古い土壁の教室、また小学校2年生の後半に出来た4階建ての校舎に比べて思わず綺麗だと感激しました。母校には、日本の学校にあるような大変現代的なグラウンドもありました。そして、自分も思わずカメラのシャッターを押し、将来いろんな言語や文化を自由に学べる学校を作りたいと大学時代の夢を思い出しました。

(呼和徳力根)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆「学習支援」雑感

「学習支援」のお手伝いをしていますと言うと、「あら、先生をしているの?」とか「あなたで大丈夫なの?」と、周囲の反応はさまざま。その度に自問自答していますが、答えはありません。

学習者と「宿題」をする時は、学校の授業の再確認をする必要があり、ちょっと先生らしいことをしています。またいつも心がけていることは、学習者の集中力が続かず勉強に関心が向かない(誰にも度々あります)時、学習内容から離れて何気ない会話をすることです。そんな時は母親気分だったり(年齢の差を素直に受け止めて)、おばあちゃんになったりです。学習者から私への積極的な語りかけが出るようになれば、気持ちを新たに学習の続きに取り組みます。コミュニケーション・ギャップの解消です。こんなことの繰り返しで学習時間はあっという間に過ぎてしまいます。

計算一題、漢字一字でも理解して欲しい、「わかった!」という手ごたえを感じてほしいという思いとともに、なにがワカラナイのか、なぜワカラナイのかを私自身が見極めなければなりません。学力不足の為に理解できないことと、日本語(特に学習語力)の不足によって理解できないことを判別することも大切だと感じています。両方の不足が重なるケースもありますし、学力、日本語力は個人差が大きく、なかなか的確な対応ができません。そうしたことへの焦り、力量不足を痛感するばかりです。

各方面で国際化が声高に叫ばれているなか、学習者ひとりひとりが安心して楽しく学ぶ機会の一支援者として、前向きに努力を重ねて学習支援に参加して行きたいと思っているこのごろです。(湊 信子)

◆支援者研修会「今できること」

7月3日(土)雨の中にも関わらず、総勢12人もの支援者でKFC支援者研修会が行われました。今回は元小学校の校長先生で、数々の教育現場を経験され、KFCの学習支援にも長年携わっていただいている東野修明先生に「今 できること」を演題に講演していただきました。まず始めに東野先生によるクイズです。“「赤い〇〇」とはなんですか。”はい、もちろん答えは「いと」です。ここでは、糸よりももっと丈夫な「紐」と答えを返して、講演は始まってきました。このクイズより、人と人との出会いが大事であること、また人とは手を表から裏から横から見るのとでは形が違うように、いろいろな側面をもっているのだと教えてもらいました。決して一方からしか見るものではないということです。

そして、子どもへの理解という題目で3つの経験談よりお話していただきました。

1つ目は「子どもと親の相談員」時の経験談です。学校を休みがち（ほぼ不登校）であったある姉妹に気付き、まずは教室ではない、市民会館で東野先生による授業がスタートしたのです。勉強はもちろんですがその子たちが興味のあることから始めていくことが大事であると言われました。そのうちに、小学校と隣接しているので同級生の子が遊びに来るようになり、友達に連れられて教室へと行きだしたそうです。ほぼ1年、教室に行かなかった子どもたちですが、友達が出来ることにより教室へ行きだした。このように、ちょっとしたきっかけで学校へ行くようになるものだと身をもって経験されました。

次に、あしなが育英会のレインボーハウスで行われている学習塾「虹の寺小屋」の経験談です。これは、KFCとも似た体系なのでいろいろと参考になりました。例えば、先生と生徒間で仲間意識を持たせるためにはどうすればいいのか、生徒にやる気を起こさせるにはどうすればいいのか等々です。最後に教育の現場の体験談より、子どもたちと合言葉を決めることで、子どもたちがきちんと先生の言うことを聞くのだと教えていただきました。

この研修会を終え、先生にお話していただいたことを今後生かしていけるようによりいっそう努力していきたいと感じました。

(青戸 彩)

◆先輩に話を聞いてみよう！

大雨で悪天候の7月15日、高校入試に関する話や高校生から話を聞く場を設けました。今回は長田中学校の中溝校長先生他2名の先生と高校生5名から、中学生4名、保護者5名、支援者・スタッフ10名がお話を伺いました。

まずは、高校生たちから、受験勉強をいつから始めたか、高校生活はどうか、後輩へのアドバイスなどを話してもらいました。

「高校卒業後、働くつもりなら資格がとれる高校に進学した方がいい」「勉強した結果が出るのは早くても3ヶ月後だから、早めに勉強を始めた方がいい」「自分が何になりたいかを早く考えて、高校を選択した方がいい」「入学した高校が合わないという話も友達から聞いたので、できるだけ多く高校の情報を得たほうがいいし、オープンキャンパスなども行ったほうがいい」「私立に進学することになるとお金の面で大変なることもあるし、保護者とはちゃんと話をしたほうがいい」「定時制は続けるのが難しいので、昼間の学校にいったほうがいい」などの話をしてくれました。

作文と面接の試験がある推薦入試で高校に受かったベトナムにルーツを持つ高校生からは、「ベトナムや日本以外の国にルーツがあるということで、日本人より一つ多くのネタを持っているのだから、自信を持って欲しい」という話がありました。

その後、長田中学校の先生から新しい選抜制度についてなどのお話があり、中溝校長先生からは、「確かに早めに将来なりたいものを決めて、それに向かって勉強することは大事です。先生

も相談に乗ってくれるので、学校の先生にも相談してみてください」というお話をいただきました。

小学生の頃からKFCで学習していた子もあっという間に高校生となり、後輩たちに立派にアドバイスしている姿を見て、とても頼もしい気持ちになりました。

大変お忙しい中、ご協力いただきました長田中学校の校長先生をはじめ先生方、また参加して下さった支援者のみなさま、誠にありがとうございました。（志岐 良子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆生野スタディーツアー

研修会として生野スタディーツアーを、理事長・デ「サ」ビス職員5名・KFC職員など3名が参加しました。

□デ「サ」ビスセンター サンボラム

生野区の韓国商店街の真ん中にあるデ「サ」ビス施設で、サンボラムへ向かう商店街には韓国語で書かれた看板や韓国のお店がたくさんありました。大阪には在日韓国人の方が多いということは聞いてはいましたが、商店街を歩いていて感じたことは、ここには小さくても韓国の街があるということでした。商店街の真ん中にあるサンボラムは在日韓国人のオモニたちが笑顔で集まれるという場所でした。サンボラムを訪れた時に、オモニが韓国語で話をしていたり韓国の歌を楽しそうに歌っている姿を見て胸が熱くなりました。

在日韓国人のオモニが集まるハナの会も今までよりもっと在日の方が笑顔で集まれるような場所となり、老後の生活や、韓国の歴史や文化や風習、歌などを忘れずに過ごしていけるような場所となり、支えていけるように職員たちは頑張っていきたいと思います。（林 亜也佳）

□小規模多機能型施設 パダ

大阪の生野区にある小規模多機能施設『パダ』に見学に行きました。生活感あふれている商店街の中にあり、1階は、デ「サ」ビス・キッチン・事務所で、2階・3階は個々のグループホームであり、家族の中で生活していけるような雰囲気がありました。プライバシーも保たれつつ介護が出来るという施設です。

見学し、思ったことはハナの会もオモニたちが老いて行く姿が目に見え、家庭的で個人個人が尊重し合えるパダのような施設が出来て、オモニたちが安心して1日いちにちを過ごされる場所作りが必要となってくると思います。ハナの会がもっと大きく成長し安心して頂ける施設作りが1日でも早く出来るように頑張っていきたいです。（吉田 信子）

◆『初めまして、オ・ホンソクと申します。』

蒸し暑い6月初めに、満員電車に乗って新長田駅に降り、ドキドキ落ち着かない気持ちでの出勤。それからあっという間に1ヶ月が過ぎました。

日本に来て10年にもなるのに、韓国人が集まる所なんて初めての僕に"ハナの会"は、ある意味で衝撃でした。♪♪アリラン♪アラリ～ヨ～。懐かしい歌が流れてくる。いつのまにか、あんまり使わなくなってしまった言葉（韓国語）の響き。ほんの一瞬だけど、故郷（韓国）に戻ったような出来事でした。

"オモニ""アボジ"たちは、自分たちもしんどいと思うのに、何時も僕のことを心配してくれます。本当に申し訳ないくらいです。

体操をしたり、カレンダーを作ったり、歌を歌う時も、“オモニ”“アボジ”たちは、毎日一生懸命にやります。その姿を見ていると、いつの間にか自分にも元気が戻ってきた気がします。今日も元気で長生きしてね。オモニ、アボジ！と願います。

(呉 洪 錫)

◆土曜日開設のお知らせ

皆さま、アンニョンハシムニカ？

今年は、珍しく大雨が続いて降る日が多い夏になりました。皆さまのご健康はいかがでしょう？ハナのオモニたちも良くない天気の影響で、辛い日々を送られています。

皆さま方の多くの関心と応援を頂いているハナの会から、お知らせがあります。2010年6月1日（土）より、月～金の営業日を1日増やして、開設。土曜日を追加で開設することになりました。週末に家族たちの介護負担を減らすことのできる点と、月～金のオモニ達が分散されて、楽に過ごせる空間を提供することができる点や、新しいオモニたちをお迎えすることができる余裕を作るための目的で、土曜日を開設することになりました。

月曜日から土曜日まで、いつでも皆さまをお迎えする雰囲気、ハナの会の職員たちは、心を込めてお待ちしております。

故郷の郷愁を感じられるハナの会。昔の友達と触れ合えるハナの会。

多くのご利用をお願いいたします。

更に、皆さまの引き続きの応援をお願いいたします。（呉 景 淑）

■■■ 今後の予定 ■■■

■お盆休み

事務所 8月13日(金)～8月15日(日)

ハナの会 8月14日(土)～8月15日(日)

■研修会

9月11日(土) 13:30～15:00

「みんなの日本語 I の使い方」 斎藤明子（神戸YWCA学院講師）

於 アスタくにつか4番館（予定）

■日本語ボランティア講座（初心者コース）

5月15日(土)～7月31日(土) 14:30～17:00

於 アスタくにつか4番館

■HIAアドバイザー派遣事業 「中上級者の支援について」

9月5日(日) 13:00～15:00

於：シューズプラザ4階会議室

9月8日(水) 13:30～15:30

於：KFC事務所（アスタクエスタ北棟501）

■ハナの会の夏まつり

9月10日(木)、11日(金)

■仕事探しに役立つ外国人のためのパソコン講座

9月12日（日）～10月3日（日）

■『多文化共生』を考える研修会 2010

◆8月18日(水)13:30～16:45

「芥川賞作家楊逸が見る多文化共生社会」

「改正入管法の概要と今後の外国人の受け入れ方針」

◆8月20日(金)13:30～16:45

「文化間移動をする子どもたちの学び

「神戸市立神戸生田中学校でのJSLの実践」

◆8月23日(月)13:30～16:45

【地域におけるマイノリティのエンパワーメント】

「山形県発！うめちゃんキムチの行政との連携、
東京進出」

「淡路フーズの外国人雇用、地域、行政との連携」

◆8月25日(水)13:30～16:45

【海外の多文化共生への取り組み】

「韓国の移民政策～単一民族思想からの脱却」

「オーストラリアの言語政策と多文化主義」

◆8月27日(金)13:30～16:45

【自治体の取り組みとNGOとの協働】

「宝塚市国際交流協会の取り組み」

「行政との協働による相談事業」

「愛知県の多文化共生推進事業について」